

1994年 村研大会 テーマ・セッション （案）

仮題：農業と女性—労働と意識の変化をめぐって—

熊谷（松田）苑子

テーマ設定の背景：

従来は「女性問題」として語られるのでなければ議論の対象に入らなかった「女性」が、農業・農村・農家についての議論の中で、一要素として語られるようになってきた。〈見える〉存在になったといえよう。特に、農業・農村・農家の維持・展開について語られるときに女性への言及が目立つ。（ちなみに年報30集は「家族農業経営の変革と継承」と題して出版されることがあるが、この中でも女性への言及があるはずである。）このように、家族農業経営の維持・再編成や法人化などの新しい経営形態の編成にかかわって、女性の農作業従事・農業経営参画の必要性と可能性が論じられ、一方、女性に焦点を当てて考える立場からは、農村家族における家父長制の超克と女性が個として自立した存在たるべきことが論じられている。そして、これらの議論を通底しているのが、村落社会においてのみならず全体社会における労働と意識の変化であると思われる。しかし、農業という集団の維持、それを前提にした農業・農村の展開、と個人の自立とはどのような状況において両立するのだろうか。

セッションの構成：

いくつかの分野ないしは領域での女性の〈見え〉方を論じ、比較、検討する。立案者としては、農業維持（特に日本における）と女性の自立とは、どのようにして可能となるのか、について労働と意識の実態を踏まえた議論を構成したいと願っている。